児童文学作品紹介フリーペーパー

紙版 ハコブネ×ブックス vol.52

https://hakobune.wp-x.jp

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・ＹＡ作品を未来に語り継ぐ web サイトです。

特集 車いすユーザーの気丈

ケティー物語
クーリッジ
偕成社 1973 年
※原書は 1872 年の作品

病気やケガのために歩くことができず、車いす生活を送っていた登場人物が、物語の終わりに立ち上がって歩けるようになる。『ケティー物語』など、かつての名作児童文学作品では、そうした展開が感動的に描かれました。しかし、現代の物語の中の車いすユーザーたちには、そんな物語めいた奇蹟は訪れません。バリアフリー環境は整っておらず、同情や不本意な気遣い方をされる。自ずと車いすユーザーは気丈に、肩肘を張ることになります。車いすユーザーの物語は、サポートする人たちの善意との相剋という難しい局面を迎えながら、それぞれのより良い共生を模索していきます。

ひと箱本屋とひみつの友だち

review

作　者　赤羽じゅん子
出版社　さ・え・ら書房
発　行　2023 年 6 月
ISBN　978-4378015620

小学五年生の女子、朱梨（しゅり）は、自分の好きな本を並べて売ることができる「ひと箱本屋カフェ」で、小学生の女の子が書いたというファンタジー小説を手にします。後日、朱梨は作者である理々亜（りりあ）と顔を合わせ、彼女が車いすユーザーであることを知ります。好きな本の話を通じて二人は親しくなっていきます。おしゃれで明るく、差別する人には毅然とした態度をとる理々亜に、車いすユーザーのイメージを覆された朱梨でしたが、友だちから車いすの子とボランティアで付き合っているのかと問われて、理々亜をひみつの友だちにせざるを得なくなります。世の中から「やさしい仲間はずれ」にされているという理々亜。彼女が直面するバリアを朱梨も知り、理解を深めながらも、思うようにサポートできない自分に向き合っていきます。

車いすでジャンプ！

review

AIR.

作　者　モニカ・コー
翻訳者　中井はるの
出版社　小学館
発　行　2023 年 6 月
ISBN　978-4092906549

七年生の女子、エミーは、生まれつき足が不自由なために車いすで生活していますが、学校内を高速で移動し、趣味の車いすモトクロスでは空中回転を決めるなど、周囲の同情を寄せつけないポジティブな少女でした。中学に入ったエミーには、常時、介助士が同行する特別支援教育プログラムが適用されることになります。学校の設備には不便もありますが、助けを必要としていない時に補助されることはエミーには心外です。自立できる環境を整えてもらいたいという自分にとって必要な支援を理解してもらうにはどうしたらいいのか。モトクロス仕様の競技用車いすを購入しようとアルバイトを続けていたエミーに、学校が寄付を募り、購入を支援してくれるという申し出に心を動かされながらも、支援する側を満足させることだけではない共生をエミーは考えていきます。

王様のキャリー

review

作　者　まひる
出版社　講談社
発　行　2024 年 8 月
ISBN　978-4065364949

中学二年生の男子、勝生（かつき）は、病院の待合席でｅスポーツ配信者のｌｉｏｎの声を聞き、ファンだと声をかけます。傲慢で横柄な態度で王様と呼ばれているｌｉｏｎですが、そのゲームの実力には勝生も憧れていました。彼がリオ（理生）という名の同い年の車いすユーザーの少年であったことに勝生は驚きます。言葉づかいは悪いけれど、フレンドリーなリオは、早速、勝生を家に誘い、ゲームのパートナーにしてゲーム内でのランクを押し上げるキャリー（おんぶ）をしてくれました。親しくつきあいながらも、自分に自信がなく、また車いすユーザーであることを気づかい、リオに言いたいことを言わない勝生は叱られてばかり。しかし、リオがどうして身勝手な王様のように振舞うのか、その苦衷を感じとった勝生に、今度はリオをキャリーするターンがやってきます。

カラフル

review

作　者　阿部暁子
出版社　集英社
発　行　2024 年 2 月
ISBN　978-4087901528

高校一年生の男子、伊澄（いずみ）は、入学式の朝、通学途中の駅で財布泥棒を捕まえようと車いすでアタックする果敢な少女、六花（りっか）と出会います。同じ高校の新入生であった六花に、初対面で迂闊に車いすを押したことをたしなめられた伊澄は、なんとなく距離を置くようになりますが、不便な学校生活を送る六花のことがずっと気になって見守っています。中学生の時に病気で歩けなくなるまでミュージカル女優を目指していたという六花。伊澄もまた怪我のために中学まで優秀な成績をおさめていた陸上競技を断念して、高校生活をあえて無為に送ろうとしていました。第一線で活躍できなければやる意味はないのか。目的を見失い、自分を諦めがちな高校生たちが互いに距離を計りながら、それでも心を通わせて、カラフルな世界を見つけだすまでに必要な時間が描かれます。

ゆりかご通信
（今村葦子）
偕成社 1994 年

ペンフレンド募集欄で知り合った遠隔地に住む文通相手の少女は、実は車いすユーザーでした。そのことに気づかないまま文通を続けていた主人公は、事実を知って慌てふためきます。一直線の善意でサポートしようとする主人公の迷いのなさ。難しく考え込まないことも物語の救いです。

特集
車いすユーザーの気丈

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.52
2026 年 1 月 1 日発行　●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト ハコブネ×ブックス（非営利）を運営しています。日本児童文学者協会第 6 回児童文学評論新人賞佳作他,諸々を受賞。

お問合せはこちらから。